

令和 5 年度

和歌山県立近代美術館の運営状況に対する評価書

和歌山県立近代美術館

和歌山県立近代美術館評価様式（令和 5 年度事業評価用）	2
1-1 展覧会（特別展・企画展）	3
1-2 展覧会（常設展）	7
1-3 展覧会（その他）	11
2 作品・資料の収集	12
3 作品・資料の保存・管理・貸出	13
4 教育普及	15
5 調査・研究	18
6 交流事業	19
7 安全と快適性	20
8 入場者数と財源の確保	23

和歌山県立近代美術館評価様式（令和5年度事業評価用）

<p>美術館長による 評価</p>	<p>今年度は、「第2回和歌山県人会世界大会記念特別事業」として、ロサンゼルス全米日系人博物館の特別協力を得て「トランスポーター 和歌山とアメリカをめぐる移民と美術」展、そして県の新政策事業として、田辺市立美術館との共催による特別展「原勝四郎展 南海の光を描く」を開催することができた。これらふたつの展覧会事業は、予算も厳しい中、新たな展覧会の開催形態として実現された意味でも貴重なものとなった。また前者では、昨年が続いて文化庁の採択事業として、国際シンポジウムを開催し、後者は、県立館として近隣の市立館と連携してゆかりの作家の展覧会を開催したはじめての機会としても評価される。</p> <p>作品収集についても、展覧会成果を反映させるとともに、郷土作家の継続としての保田龍門の作品・資料や大家利夫コレクションはじめ、磯井利光コレクションにおける現代美術作品ほか、今後も常設展示での活用が期待される作品が数多く収集できたことも高く評価される。</p> <p>また、施設面においては、建設から30年近くを経過し、老朽化への対策や想定される南海トラフ巨大地震への対応もすすめるため、外壁の全面工事とともに、エレベーターの新規導入をはかり、将来のさらなる改修工事への第一歩を踏み出すことができた。さらに黒川紀章設計の建築として、解体された中銀カプセルタワービルのカプセル1棟を美術館正面に展示して話題を集め、新たな展開も期待されるだろう。</p>
<p>評価部会による 評価</p>	<p>展覧会はいずれも充実した内容で、コレクション活用の充実が図られ、美術の動向を検証するテーマ展のほか、教職員と連携した「なつやすみの美術館」、小学生向けの鑑賞会など、例年同様、充実した教育普及事業も展開させている。また今年度も収蔵作品が充実し、これらの活動が、令和5年度地域創造大賞（総務大臣賞）の受賞にも示されているように、地域特性を活かした堅実な活動として高く評価できる。今後はさらに広がりのある活動にも期待したい。</p>

1-1 展覧会（特別展・企画展）

美術館長による所見	企画展での当館コレクションの核をなす版画の紹介、そして毎年夏の恒例事業となった学校教育との連携を確実にするとともに、後者は現代美術展としても高い評価を得ることができた。加えて、特別事業、特別展として開催したふたつの展覧会についても、冒頭の「評価」に記したとおり充実した内容で開催することができた。
評価部会による所見	いずれも充実した内容の展覧会となっている。地域の特性を活かす企画の一方、「トランスポーター」はダイナミックな広がりがあった。企画展に図録やパンフレットを製作し成果物を残すことができていないのは、今後も解決すべき課題である。

① 企画展 石ノウエニ描ク 石版画と作り手たちの物語

会期：令和5（2023）年4月22日（土）－7月2日（日） 72日間・うち休館10日

会場：展示室C（2階）

A. 展覧会の内容（趣旨・構成・出品作品・工夫・調査研究成果の反映）

令和5年度目標	版画技法の中でも肉筆画に最も近い表現が可能とされる石版画（リトグラフ）。その多彩な表現の世界を当館の版画コレクションから紹介する。
成果・課題	5つのセクションにより、石版画の幅広い作品を紹介した。技法についての質問が多く、いかに応えるかが今後の課題となった。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作（成果の記録・普及）

令和5年度目標	ポスター、チラシ、出品目録等を制作する。
成果・課題	ポスター、チラシ、出品目録を制作した。『和歌山県立近代美術館ニュース』No.115で展覧会内容の紹介記事を掲載した。

C. 関連事業（教育・地域・外部機関等との連携）

令和5年度目標	講演会、フロアレクチャー、こども美術館部等を開催する。
成果・課題	レクチャー3回、こども美術館部2回を実施した。レクチャーでは版画家・出原司氏による特別講演会を実施した。

D. 安全確保・快適性

令和5年度目標	出品作品・資料、来館者の安全確保を行い、美術館として快適な施設を維持する。
成果・課題	展示撤去作業、監視、清掃のスタッフの確保に勤めた。

E. 入館者数

令和5年度目標	6,000人を目標とする。
成果・課題	4,936人であった。

② 企画展 なつやすみの美術館 13 feat. 橋本知成

会期：令和 5（2023）年 7 月 11 日（火）－9 月 10 日（日） 62 日間・うち休館 8 日

会場：展示室 C（2 階）

A. 展覧会の内容（趣旨・構成・出品作品・工夫・調査研究成果の反映）

令和 5 年度目標	学校教育と連携し、夏休みを利用して児童・生徒が美術館の楽しみ方を学ぶ機会となる展覧会の 13 回目。国際的な評価を高めている湯浅町出身の陶芸作家・橋本知成（1990－）の作品と当館収蔵作品を組み合わせで紹介する。新政策により熊野古道なかへち美術でもワークショップ等を実施する。
成果・課題	橋本知成による抽象的な立体作品と、当館所蔵品の組み合わせは、橋本が自作と同様に当館所蔵品にも台座を制作するなど、一体感のある展示空間となり、高評価を得ることができた。熊野古道なかへち美術館（田辺市立美術館分館）でワークショップと展覧会が実施された。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作（成果の記録・普及）

令和 5 年度目標	ポスター、チラシ、出品目録、ワークシート、パンフレットを制作する。
成果・課題	ポスター、チラシ、出品目録を制作したほか、『和歌山県立近代美術館ニュース』No.116 に展覧会紹介記事を掲載した。和歌山美術館教育研究会の取り組みとしてワークシートを制作。和歌山大学美術館部を指導して鑑賞ワークシートを制作。

C. 関連事業（教育普及・地域との連携）

令和 5 年度目標	フロアレクチャー、こども美術館部、ワークショップ等を実施する。
成果・課題	対談 横山勝彦（呉市立美術館館長）・橋本知成、フロアレクチャー 3 回、こども美術館部 2 回を実施した。

D. 安全確保・快適性

令和 5 年度目標	出品作品・資料、来館者の安全確保を行い、美術館として快適な施設を維持する。
成果・課題	作業スタッフの確保と意識向上に努めた。重量のある作品の移動、展示のため特別なスタッフの手配も必要であった。陶芸作品の保全に特に留意した。

E. 入館者数

令和 5 年度目標	8,000 人を目標とする。
成果・課題	8,769 人であった。熱中症警戒アラートの発表が続く中で児童・生徒の来館を呼びかけることに矛盾があった。

3 特別事業 トランスボーダー 和歌山とアメリカをめぐる移民と美術

会期：令和5（2023）年9月30日（土）－11月30日（木） 62日間・うち休館8日

会場：展示室C（2階）

主催：和歌山県立近代美術館、和歌山移民研究を軸とした国際交流事業実行委員会

特別協力：全米日系人博物館

協力：太地町教育委員会、和歌山大学紀州経済史文化史研究所、和歌山市立博物館、南加和歌山県人会

A. 展覧会の内容（趣旨・構成・出品作品・工夫・調査研究成果の反映）

令和5年度目標	和歌山県人世界大会記念特別事業として、県国際課と協力。文化庁事業と関連づけ、移民として多くの人々が海を渡った和歌山県の歴史を背景に、アメリカ西海岸を中心に、美術を志した人々の足跡を追う。
成果・課題	これまで培ってきた戦前の渡米美術家研究をさらに広げ、県内の関係各機関や全米日系人博物館と協力することで、明治期から太平洋戦争の時代にかけての、和歌山を中心とする移民と美術についての歴史を見直し、紹介することができた。特に現在の有田川町出身の画家上山鳥城男の活動を、初公開の作品や資料とともに示せたことは成果としてあげられる。今後も各機関と連携を深めながら、調査研究や普及活動を継続していく。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作（成果の記録・普及）

令和5年度目標	図録、ポスター、チラシ、出品目録等を制作する。
成果・課題	図録、ポスター、チラシ、招待状、出品目録を制作した。シンポジウムではプログラムを制作し、ウェブにて動画による告知も行った。

C. 関連事業（教育・地域・外部機関等との連携）

令和5年度目標	シンポジウム、フロアレクチャー、こども美術館部等を実施する。
成果・課題	国際シンポジウム（主催 和歌山移民研究を軸とした国際交流事業実行委員会）、フロアレクチャー3回、こども美術館部2回を実施した。

D. 安全確保・快適性

令和5年度目標	出品作品・資料、来館者の安全確保を行い、美術館として快適な施設を維持する。
成果・課題	必要となる人材の確保と業務内容の質的向上に努めたが、清掃等で行き届かない部分も残るのが課題である。

E. 入館者数

令和5年度目標	6,000人を目標とする。
成果・課題	8,057人であった。

4 特別展「原勝四郎展 南海の光を描く」

会期：令和5（2023）年10月7日（土）－12月3日（日） 58日間・うち休館8日

会場：展示室A（1階）

主催：和歌山県立近代美術館、田辺市立美術館

助成：地域創造

A. 展覧会の内容（趣旨・構成・出品作品・工夫・調査研究成果の反映）

令和5年度目標	和歌山県の施策「新政策 紀南地方の美術館との合同展覧会事業」として田辺市立美術館との協働により、現在の田辺市出身の画家・原勝四郎（1886～1964）の画業をあらためて掘り起こし、交流のあった画家の作品とともに紹介。地域創造の助成を申請する。
成果・課題	原の画業全体をふり返る展示を当館で、紀南地域における画家との交流に触れた展示を田辺市立美術館で同時に開催することで、地方にありながらも日本の近代美術史に軽んずることのできない足跡を残した画家の生涯と、和歌山県における美術動向を地域創造の助成を得て広く紹介した。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作（成果の記録・普及）

令和5年度目標	図録・ポスター・チラシ・出品目録等を制作する。
成果・課題	田辺市立美術館と合同で図録、チラシ、案内ハガキ、「田辺・白浜 原勝四郎ゆかりの地マップ」を制作した。ポスターのデザインもひとつの展覧会に見えるよう共通性を持たせた。出品目録も制作。

C. 関連事業（教育・地域・外部機関等との連携）

令和5年度目標	講演会、フロアレクチャー、こども美術館部、ワークショップ等を実施する。
成果・課題	記念トークイベント 酒井哲朗（福島県立美術館名誉館長）・宮本久宣・三谷渉（田辺市立美術館学芸員）、記念ワークショップ「原勝四郎ゆかりの地をめぐる」（実施・運営 NPO 法人和歌山芸術文化支援協会）、フロアレクチャー3回、こども美術館部2回、和歌山大学生によるフロアレクチャー1回、「言葉」で感じる美術館～視覚障害者をつくる美術鑑賞～（主催 和歌山県人権啓発センター、運営 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ）2回を実施した。

D. 安全確保・快適性

令和5年度目標	出品作品・資料、来館者の安全確保を行い、美術館として快適な施設を維持する。
成果・課題	必要となる人材の確保と質的向上に努めたが、清掃等で行き届かない部分も残るのが課題である。

E. 入館者数

令和5年度目標	6,000人を目標とする。
成果・課題	6,683人であった。

1-2 展覧会（常設展）

美術館長による 所見	本年度は、前年度から継続する新たな活動の一環としての近代写真展、コレクションの中から、日本画をとおして床の間文化に焦点を絞った企画、さらには「美術と音楽」との関わりを提示した特集展示や、これも当館コレクションの新たな展開を示した製本への注目など、館コレクションを駆使して「常設展示」の可能性について踏み込んだ内容を提示できたと思う。
評価部会による 所見	常設展も充実している。寄贈品をまとめて公開した大家利夫の特集展示は、作家のためにも、県の施設としてもやはりパンフレットなどの展覧会の成果物を残すべきであり、この美術館の課題であろう。

① コレクション展 2023－冬春 特集：新収蔵 奈良原一高の写真

会期：令和5（2023）年2月11日（土・祝）－5月7日（日） 86日間・うち休館12日
会場：展示室A・B（1階）

A. 展覧会の内容（趣旨・構成・出品作品・工夫・調査研究成果の反映）

令和5年度目標	所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、テーマを設けながら和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を展示する。新たに収蔵された奈良原一高の写真作品を特集して展示する。
成果・課題	6つのセクションにより所蔵品を紹介。また新収蔵の奈良原一高の写真作品を特集展示し、〈無国籍地〉〈人間の土地〉〈王国〉シリーズから95点を紹介した。同時期開催の「とびたつとき 池田満寿夫とデモクラートの作家」に関連し1950年代、親交が深かった池田と奈良原の作品を展示することで、美術と写真による時代の革新を示すことができた。

B. 出品目録等の制作（成果の記録・普及）

令和5年度目標	出品目録を制作する。
成果・課題	チラシ、出品目録を制作した。

C. 関連事業（教育・地域・外部機関等との連携）

令和5年度目標	フロアレクチャー等を開催する。
成果・課題	講演会2回、フロアレクチャー2回を実施した。

D. 安全確保・快適性

令和5年度目標	出品作品・資料、来館者の安全確保を行い、美術館として快適な施設を維持する。
成果・課題	必要となる人材の確保と質的向上に努めたが、清掃等で行き届かない部分も残るのが課題である。

E. 入館者数

令和5年度目標	3,000人を目標とする。
成果・課題	5,403人（令和5年度としては2,544人）であった。

② コレクション展 2023－春夏 特集：美術と音楽の出会い

会期：令和5（2023）年5月20日（土）－7月30日（日）72日間・うち休館10日

会場：展示室A・B（1階）

A. 展覧会の内容（趣旨・構成・出品作品・工夫・調査研究成果の反映）

令和5年度目標	所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、コレクション展では和歌山ゆかりの近現代美術を紹介する。また特集「美術と音楽の出会い」を開催する。
成果・課題	床の間文化を考える小コーナーを設けた。また特集では美術・音楽というジャンルを超えた展示で、観客の関心を引き出すことができた。

B. 出品目録等の制作（成果の記録・普及）

令和5年度目標	出品目録を制作する。
成果・課題	出品目録を制作した。

C. 関連事業（教育・地域・外部機関等との連携）

令和5年度目標	フロアレクチャー等を実施する。
成果・課題	館長によるレコードコンサート&トーク（協力 ウメダ電器）、館長によるフロアレクチャー5回、スライドレクチャー1回、解説付きコンサート（協力 友の会）を実施した。美術・音楽をめぐる多彩なイベントを実現できた。一方で、床の間をテーマにしたスライドレクチャーは参加者が少なく、事前の広報不足が課題として残った。

D. 安全確保・快適性

令和5年度目標	出品作品・資料、来館者の安全確保を行い、美術館として快適な施設を維持する。
成果・課題	必要となる人材の確保と質的向上に努めたが、清掃等で行き届かない部分も残るのが課題である。

E. 入館者数

令和5年度目標	3,000人を目標とする。
成果・課題	5,786人であった。

③ コレクション展 2023－夏秋 特集 本のために－大家利夫の仕事－

会期：令和 5（2023）年 8 月 11 日（金・祝）－9 月 24 日（日） 45 日間・うち休館 6 日

会場：展示室 A・B（1 階）

A. 展覧会の内容（趣旨・構成・出品作品・工夫・調査研究成果の反映）

令和 5 年度目標	所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、テーマを設けながら和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を展示する。特集として多くの作品を寄贈いただいた大家利夫氏の造本家としての仕事を紹介する「本のために－大家利夫の仕事」を開催する。またもうひとつの特集として寄託中の作品により「広島市現代美術館所蔵品による池田満寿夫の 1960～1980 年代」のコーナーを設ける。
成果・課題	コレクション展では恩地孝四郎の造本や池田満寿夫の挿画本も紹介し、特集展示へとつないだ。大家利夫の個展は、ロサンゼルス・カウンティ・ミュージアムについて 2 番目。会期中、作家が関わってきた多くの美術家や研究者らが会場を訪れた。大家氏と共に作業した展示方法が好評だった。

B. 出品目録等の制作（成果の記録・普及）

令和 5 年度目標	出品目録を制作する。
成果・課題	製本というあまり知られていないジャンルの作品の目録を制作し、展示キャプションと共通の短い説明を掲載した。招待状を制作した。

C. 関連事業（教育・地域・外部機関等との連携）

令和 5 年度目標	フロアレクチャー等を実施する。
成果・課題	記念対談、作者による解説 4 回を実施した。展示解説では作者の解説のもと実際に作品に触れられる機会となった。

D. 安全確保・快適性

令和 5 年度目標	出品作品・資料、来館者の安全確保を行い、美術館として快適な施設を維持する。
成果・課題	必要となる人材の確保と質的向上に努めたが、清掃等で行き届かない部分も残るのが課題である。

E. 入館者数

令和 5 年度目標	3,000 人を目標とする。
成果・課題	4,146 人であった。

④ 小企画展 原勝四郎と同時代の作家たち

会期：令和5（2023）年10月7日（土）－12月24日（日） 79日間・うち休館11日

会場：展示室B（1階）

A. 展覧会の内容（趣旨・構成・出品作品・工夫・調査研究成果の反映）

令和5年度目標	特別展「原勝四郎展 南海の光を描く」の開催に合わせ、当館の洋画コレクションを中心に、一部借用作品も交えて、原勝四郎（1886-1964）と同時代に活躍した黒田清輝、山下新太郎、青山熊治や長谷川潔ら、原が影響を受け、また交流した画家たちの作品を紹介する。
成果・課題	原勝四郎の回顧展の関連企画として、原の生涯や作品を時代のなかに位置付けて見られるよう、その同時代の美術を洋画を中心に紹介した。原の生涯に沿って3章で構成、全38作家44点、資料1点を展示し、充実した内容とすることができた。またこの機会に合わせて、新たな作品を寄託として受け入れられたことは大きな成果である。

B. 出品目録等の制作（成果の記録・普及）

令和5年度目標	出品目録を制作する。
成果・課題	出品目録を制作した。

C. 関連事業（教育・地域・外部機関等との連携）

令和5年度目標	フロアレクチャー等を実施する。
成果・課題	特別展「原勝四郎展 南海の光を描く」の関連企画であり、展示解説は原勝四郎展内で行うこととして、本展単独での関連事業は実施しなかった。「原勝四郎展」のフロアレクチャー終了後に個別に質問に応じるなどの対応は行なった。

D. 安全確保・快適性

令和5年度目標	出品作品・資料、来館者の安全確保を行い、美術館として快適な施設を維持する。
成果・課題	必要となる人材の確保と質的向上に努めたが、清掃等で行き届かない部分も残るのが課題である。

E. 入館者数

令和5年度目標	10,000人を目標とする。
成果・課題	8,063人であった。県展・ジュニア県展の観客にも見てもらえるよう無料開放としたが、27%に届かなかった。

1-3 展覧会（その他）

① 第77回和歌山県美術展覧会（県展）／第9回和歌山県ジュニア美術展覧会

県展会期：令和5（2023）年12月13日（水）－12月17日（日）

県展会場：展示室A（1階）・C（2階）

ジュニア県展会期：令和5（2023）年12月20日（水）－12月24日（日）

ジュニア県展会場：展示室A（1階）

主催：和歌山県

共催：和歌山県教育委員会、和歌山県立近代美術館、和歌山県美術家協会、毎日新聞社和歌山支局、一般財団法人和歌山県文化振興財団、橋本市、新宮市、上富田町

協賛：公益財団法人大桑教育文化振興財団

A. 展覧会の内容（趣旨・構成・出品作品・工夫・調査研究成果の反映）

令和5年度目標	県文化学術課が実施する県展、ジュニア県展に美術館として協力、開催する。県展を訪れた観客に、当館コレクションに親しんでもらえるよう、同時期にコレクション展を無料で開催する。
成果・課題	外部審査員の選考、作品の取り扱いの助言を行った。入選・入賞者部門の展示を美術館で開催。同時開催の無料コレクション展として「小企画展 原勝四郎と同時代の画家たち」を行った。

B. 安全確保・快適性

令和5年度目標	出品作品・資料、来館者の安全確保を行い、美術館として快適な施設を維持する。
成果・課題	必要となる人材の確保と質的向上に努めたが、県展の展示・撤収作業については当館展覧会開催事業から捻出しなければならなかった。清掃等で行き届かない部分も残るのが課題である。

C. 入館者数

令和5年度目標	6,000人を目標とする。
成果・課題	5,135人（県展2,891人、ジュニア県展2,244人）

2 作品・資料の収集

美術館長による 所見	限られた予算の中でも、恩地孝四郎の版画の大作や一連の保田春彦作品を購入し、また「トランスボーダー」展での上山鳥城男や浜地清松らの貴重な油彩画、まとまったS氏、H氏、さらに林康夫、日高昌克、保田龍門、そして大家利夫、磯井利光コレクションほか436点にのぼる新たなコレクションを加えられたことは、学芸員たちの調査とコレクターたちとの信頼関係の成果が如実に反映されている。
評価部会による 所見	現代美術の購入が増えればさらにバランスがよくなるだろう。恩地孝四郎の後期作品をはじめ、堅実な収集が評価できる。寄贈作品の多さも美術館への期待や、学芸員と所蔵者との信頼関係を物語っている。

① 作品・資料の収集

A. 美術作品収集方針に沿った作品・資料の収集（コンプライアンス、収集手続き）

令和5年度目標	美術作品収集方針に沿った適正な手続きに基づいて作品・資料の収集を行う。
成果・課題	令和6年3月1日に令和5年度美術作品選定委員会を開催し、諮問の上適正に作品を収蔵した。

B. 購入、受贈に係る作品・資料の点数、内容

令和5年度目標	購入・受贈において作品・資料の点数、内容が適切であるようにする。
成果・課題	購入16点、寄贈19件436点を受け入れた。

② 図書資料の収集・公開

令和5年度目標	図書資料を収集し、研究や閲覧に活用する。
成果・課題	逐次刊行物10タイトル、単行本7冊、ギャラリー・グラフィカ旧蔵資料として版画関連書籍30冊の購入を進めた。

3 作品・資料の保存・管理・貸出

美術館長による 所見	本年度も継続して、作品・資料の「保安環境の整備」や「保存修復」が行われ、また、県の新政策「和歌山県立博物館施設デジタル化計画事業」についても、当館が主導して、時代性にも則した貴重な第一歩を踏み出すことができたことは、高く評価できる。「作品・資料の貸出」についても、新設の大阪中之島美術館ほかに協力を行うことによって、コレクションの有効活用が示されている。
評価部会による 所見	地道な保存や修復の活動が美術館の土台形成となっている。また、貸出作品が多い展覧会のうち「とびたつとき 池田満寿夫とデモクラートの作家たち」はこの美術館でも開催されたものだが、「版画の青春 小野忠重と版画運動」など当館でこそ開催できればよかった展覧会もある。

① 作品・資料の管理

令和 5 年度目標	作品・資料の状態調査を適切に行う。
成果・課題	展示、貸出の機会にあわせて継続的に所蔵品の状態を調査し、保存上の対策を必要とする作品については、マットや保存用紙、額の改良・交換を中心に処置を進めた。また新収蔵品を中心に撮影を行った。作業の継続が大切である。

② 作品・資料の保存環境の維持

令和 5 年度目標	作品・資料にとって適切な保存環境を保ち、整備する。
成果・課題	温湿度の観察、館内 98 か所での害虫モニタリング、収蔵庫・展示室等のホルムアルデヒドと酢酸・ギ酸の空気環境調査、浮遊菌調査、展示室のブンガノン散布、展示替え作業時に展示室、展示資材倉庫の床面の塩化ベンザルコニウムによる除菌清掃を実施した。収蔵庫内に棚・マップケースが増設され、作業机に溢れていた作品が収納できたが、収蔵庫の狭隘化により、圧迫をとまなう棚収納、展示室や会議室で資料を保管せざるを得ない状況となっている。

③ 作品・資料の保存修復

令和 5 年度目標	作品・資料に対し適切な保存修復を行う。
成果・課題	立体 2 点、洋画 2 点の修復と状態観察を行った。石垣栄太郎の壁画修復は、和歌山工業高校に連携協力を得て、裏打ち作業に進むことができた。のこる 3 点の裏打ちと支持体への装着が今後の課題である。

④ 作品・資料のデータ管理・公開

令和5年度目標	<p>新政策「和歌山県立博物館施設デジタル化計画事業」（和歌山県立近代美術館、和歌山県立博物館、和歌山県立紀伊風土記の丘の3館がそれぞれ、収蔵品・資料データベースを各館のウェブサイトで公開するとともに、3館の資料を横断的に検索できるシステムと各館の活動を紹介するポータルサイトを設置）令和4-6年度の3か年継続事業の2年目。最新の情報を公開できるようにし、バイリンガル対応を行う。全作品の約12,000点の文字データを公開し、画像等は段階的に追加して、3か年で約7,500点の画像公開を目標とする。国立国会図書館が主導するジャパンサーチ等との連携を行うとともに、県内市町村立館や私立館にも参加を促し、和歌山県の文化財情報を集約的に紹介できるサイトとして、観光行政にも効率的に接続できるようにする。</p>
成果・課題	<p>令和4年度に約12,000点の文字データを公開し、令和5年末までに画像約4,500点分を公開した。著作権が切れたものについては画像のフリー利用可とした。データベースの横断検索で、「地図から見る」「年表から見る」のコンテンツを追加した。</p>

⑤ 作品資料の貸出

令和5年度目標	<p>国内外の美術館と協力して作品・資料を貸出し、所蔵品の公開をする。</p>
成果・課題	<p>14件の展覧会に総数273点を貸し出した。</p>

4 教育普及

美術館長による 所見	教育普及については、全国の美術館にも範を示しうる当館の特色ある活動として定着しており、本年度も和歌山美術館教育研究会の開催をはじめとして数多くのプログラムを実施した。
評価部会による 所見	地元大学の「美術館部」に協力するなど、ユニークな活動が評価できる。また、友の会は会の運営方針や制度について検討すべき時機に来ていると思われる。

(1) 学校教育関連

① 学校教育団体からの来館の受け入れ

令和5年度目標	学校教育団体からの鑑賞を積極的に受け入れる。
成果・課題	96件 3,070名の団体を受け入れ、うち88件 2,762名に解説などの対応を行った。

② 学校・教員等と連携した事業（展覧会関連事業以外）

令和5年度目標	学校教員との協力体制の強化を目的として各種研修会に積極的に参画する。学校教員を中心とする和歌山美術館教育研究会を組織し、中学校での宿題としての展覧会利用やワークシート制作などに取り組む。
成果・課題	和歌山美術館教育研究会を9回開催し、「なつやすみの美術館」でのワークシート制作に継続して取り組み、夏期休暇中の生徒たちの来館へとつなげた。和歌山市中学校教科等研究会、和歌山市小学校図工教育研究会などによる教員研修も積極的に受け入れ、学校教育との連携に努めた。第62回社会教育研究全国集会博物館分科会等の開催にも協力した。 和歌山大学教育学部と県教育委員会の連携事業の一環として、和歌山大学教育学部、同附属小学校・中学校と連携して展覧会を課題とした鑑賞、制作、指導法の策定に取り組んだ。移民と美術について、和歌山県歴史教育者協議会との教育連携を開始した。

③ 博物館実習生・インターンシップ・教員研修などの受け入れ

令和5年度目標	博物館実習生・職場体験学習・インターンシップ・教員研修などを受け入れる。
成果・課題	博物館実習にて4大学5名、職場体験学習にて中学校6校22名、教育庁、教育総務課のインターンシップにて高校生2名、特別支援学校1名、大学生5名を受け入れた。また県立学校長会、市町村教育長会、指導主事会、県立中学校教頭会、泉南市美育協会、県内小中教員、有田地方交通指導員協議会等の研修を実施した。

(2) 生涯学習関連

① 講演会・解説会・体験的プログラム等の実施（展覧会関連事業以外）

令和5年度目標	展覧会に関連しない行事も可能な限り積極的に開催する。
成果・課題	休館中にもこども美術館部を2回開催。放送大学面接授業。「学芸員のおしごと体験」の開催（5月6日）。社会教育研究全国集会博物館分科会の開催への協力（8月20日）。（6月6日、7日）、和歌山藍プロジェクト実施への協力（7月18日）など。

② ボランティア活動の受け入れ

令和5年度目標	図書ボランティア等の活動を受け入れる。
成果・課題	図書ボランティアの活動は休止したが、刊行物校正のボランティア1名、和歌山大学ミュージアムボランティア2人を受け入れた。

③ 友の会等の支援組織との連携

令和5年度目標	友の会、NPO等の芸術文化支援組織の活動に相互協力する。
成果・課題	友の会主催により展覧会のレセプション2回、「トランスボーダー」関連企画の映画会が実施された。 NPO 和歌山文化芸術支援協会のアーティスト・イン・レジデンス・プログラム「森のちから XIV 森の時間（参加作家：栗田宏一）」に協力した。

(3) 地域との連携

① 自主事業

令和5年度目標	地域との交流プログラムを工夫する。
成果・課題	オリジナルスタンプによるスタンプラリーを実施し通年のリピーター獲得に取り組んだ。

③ 協力事業

令和5年度目標	県警音楽隊たそがれコンサートへの事業協力を行う他、関西文化の日等のイベントへの事業協力を行う。
成果・課題	県警音楽隊たそがれコンサート、インド伝統工芸師イベント、WAKAYAMA COFFEE MARKET、GOES ON WAKAYAMA、すきわかマーケット、きのくに建築賞審査会等の開催に協力した。

(4) 印刷物の刊行

① 機関紙『和歌山県立近代美術館ニュース (NEWS) 』

令和5年度目標	機関誌「NEWS」を年4回刊行、関係機関、友の会会員等に送付する
成果・課題	機関紙「NEWS」を年4回、各2,500部を発行した。発行の遅れと経費削減のため、まとめて送付しなけりばならなかつた。

② 展覧会カレンダー

令和5年度目標	年間の展覧会カレンダーを製作し、情報提供・広報活動を行う。
成果・課題	令和5年度展覧会カレンダー 6.1×10.5cm 巻き5折(10頁)を製作(10頁)、30,000部を配布して展覧会の周知を図つた。

③ 年報

令和5年度目標	令和4年度の活動をまとめた年報を刊行する。
成果・課題	『和歌山県立近代美術館年報 2022 (令和4)年度』を250部刊行した。

(5) メディア等への情報発信

① プレスリリース、取材協力

令和5年度目標	メディアへの広報・情報提供活動を行う。番組制作等に協力する。
成果・課題	展覧会ごとにプレスリリースを作成し、県内広報機関を始め、美術関連メディアを中心に情報発信を行った。

② ホームページでの情報発信 (更新回数・工夫)

令和5年度目標	ホームページ上で美術館情報を公開する。
成果・課題	プレスリリースやメディアへの画像提供をホームページ上から行えるようにした。

③ メールマガジンによる情報発信 (回数・工夫)

令和5年度目標	10回を目標とする。メールマガジンに画像を加える等興味を引く工夫をする。
成果・課題	令和5年5月3日発行の184号から令和6年3月29日に発行の195号まで計12回発行した。登録者661人。

④ SNSによる情報発信 (回数・工夫)

令和5年度目標	SNSを利用した情報発信を適宜行う。
成果・課題	Facebook、X (旧Twitter)、Instagram等を通じた情報発信に努めた。

⑤ 問い合わせ・質問(電話・来館等)への対応

令和5年度目標	専門的内容に関する問い合わせ・質問(電話・来館等)に対応する。
成果・課題	作品に関する問い合わせなどに適宜対応し、必要と判断した際には直接赴いて作品調査や保存、寄贈の相談に応じた。

5 調査・研究

美術館長による 所見	「調査・研究」は、博物館学芸員活動の根幹をなすものであるが、本年度は「トランスボーダー」展を介しての国際的な広がりも示されたことに、新たな展開も期待できる。それは充実した2冊の図録の刊行にも示され、その成果を広く公開できたことも評価される。
評価部会による 所見	調査・研究活動が作品収集や展覧会など基本的な美術館活動に活かされている点が評価できる。

① 調査・研究テーマ

令和5年度目標	当館の活動方針を大切にし、長期的な展望を持って調査研究を進める。
成果・課題	各自が取り組む課題の研究を進めた。

② 研究成果の公表

令和5年度目標	研究成果を外部に向けて公表する。
成果・課題	研究の成果を展覧会に反映させると共に、館外でも執筆、講演などの活動を通じて成果を広く知らせた。

6 交流事業

美術館長による 所見	「トランスボーダー 和歌山とアメリカをめぐる移民と美術」展会中に「令和5年度 文化庁 Innovate MUSEUM 事業」に採択された「和歌山移民研究を軸とした国際交流事業実行委員会」による「移民と美術をめぐるシンポジウム Vol.2」を昨年に続いて、国内外の研究者を招いて開催できたことは、展覧会の開催とともに有意義な機会となった。また、昨年に続いて、日本博物館協会近畿支部長館として研修ほかを通して、加盟館との交流をはかることができた。
評価部会による 所見	地域の特性を活かした文化庁事業を展覧会と関連させながら継続実施できた点は評価される。

① 和歌山移民研究を軸とした国際交流事業

令和5年度目標	令和5年度 Innovate MUSEUM 事業（文化庁補助事業）として「博物館を中心とした広域連携に基づく和歌山移民史の総合研究発信事業」を実施する。
成果・課題	ヘンリー杉本旧蔵資料のデジタルアーカイブ化、県立高校教諭との全米日系人博物館等での現地調査、県立高校でのオンライン授業、カナダでの移民調査、国際シンポジウムの開催を行った。記録集の制作、次年度への継続が課題である。

② 日本博物館協会

令和5年度目標	前年に続き近畿支部幹事館を担当する。
成果・課題	支部長会議、近畿支部第25期後記研修会、近畿支部第25期後記第2回役員会を実施した。博物館総合調査委員として青木加苗を派遣した。

③ 全国美術館会議

令和5年度目標	総会や研究部会にできるだけ出席する。
成果・課題	研究部会に青木加苗、奥村一郎を派遣した。

7 安全と快適性

美術館長による 所見	当館施設も 30 年を経過し、持続的な活動を確保するために、安全性にも配慮した大規模な外壁改修、並びにエレベーター交換を実施できた。今後さらなる施設改修を実施していく必要がある。
評価部会による 所見	施設の傷みも目立ち、計画的な修繕実施が肝要である。外壁やエレベーター工事が、建築家の作品・著作物としての価値を尊重しながら進められた点は今後さらに評価されていくであろう。

(1) 施設・設備

① 施設・設備の維持管理（定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等による安全確保）

令和 5 年度目標	施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等によって安全確保を行う。
成果・課題	委託業者と連携して施設・設備の日常点検、定期点検等により、館運営に支障を来さないよう必要な措置を講じた。点検による課題を整理し、今後の整備計画を更新していく必要がある。

② 施設・設備の改修・更新・整備・増設

令和 5 年度目標	外壁、エレベーターの改修工事を行う。経年劣化による各設備老朽化に対応する。
成果・課題	外壁の大規模改修、エレベーターの改修工事を実施した。今後、空調設備、故障中の重量パイプシャッターの改修、安全確保のため三角コーンを設置している外構のひび割れ部等の修繕等を進めていく。

③ 日常的なメンテナンス等による施設的美観の保持・衛生管理

令和 5 年度目標	日常的なメンテナンス等により施設的美観の保持・衛生管理を行う。
成果・課題	日常的なメンテナンスを継続して行った。

④ 長期修繕計画

令和 5 年度目標	長期修繕計画に基づき、計画的に修繕を行う。
成果・課題	令和 6 年度は 1 階・2 階の空調設備の改修を予定。令和 7 年度以降、耐用年数を経過した受電設備、収蔵庫の空調設備改修・収蔵庫拡張計画等について計画を見直し、効率的に取り組む。

(2) 快適性の向上

① バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応

令和5年度目標	バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応を取る。
成果・課題	エレベーター改修に伴い、バリアフリーに配慮した工事を実施した。

② 利用者に対する接遇

令和5年度目標	利用者に対し適切な接遇を行う。接遇の向上を図る。
成果・課題	できるだけ丁寧な対応を心がけるよう、意識の向上に努めた。

③ 快適性向上のための上記以外の取り組み

令和5年度目標	施設の破損や汚れ等について、日常気づいた点を把握し、改善を図る。
成果・課題	職員の巡回対応、委託業者との連携により、快適性の維持に努めた。 故障中のトイレやウォータークーラー等について修繕し、来館者の快適性回復・向上に努めていく必要がある。

(3) 危機管理

① 危機管理・防災体制

令和5年度目標	危機管理・防災体制について、実地訓練等を行う。同体制について日常的な取り組みを行う。
成果・課題	地震および火災時の避難訓練を実施した。

② 個人情報の保護・データ管理

令和5年度目標	個人情報の保護・データ管理を適切に行う。
成果・課題	関係者、講演会等への参加者などの情報管理を適切に行った。

(4) 職員研修

令和5年度目標	館内外の研修に対して、職員が参加できる体制をとる。研修参加は各職員あたり2回以上の参加を目指す。
成果・課題	来館者への接遇等、適切な対応ができるよう職員の資質向上のため研修を実施した。職務の都合等で2回以上参加できない職員もあったが、後日の資料配付等により対応した。

(5) 情報公開・利用者のニーズなどの把握

① 使命、目標、計画などの方針の公開

令和5年度目標	使命、目標、計画などをホームページ等で公開する。
成果・課題	「和歌山県立近代美術館の使命」をホームページと年報で公開した。

② 実績や評価結果の公開

令和5年度目標	実績の検討や評価を行い、その結果をホームページ等で公開する。
成果・課題	令和4年度の評価をホームページで公開した。年報を刊行すると共に、ホームページでも公開。

③ 入館者情報（年齢層・地域・情報入手手段等）の把握

令和5年度目標	入館者情報の把握を行う。
成果・課題	アンケート回答コーナーを設置し、調査を実施した。

④ 利用者の満足度・ニーズなどの把握

令和5年度目標	利用者の満足度・ニーズなどの調査を行う。
成果・課題	アンケート回答コーナーを設置し、調査を実施した。

⑤ 調査結果等を反映した運営

令和5年度目標	満足度・ニーズなどの調査結果を反映した運営を行う。
成果・課題	アンケートを受付・監視員の日報と共に毎日回覧し、解決すべき問題、意見には迅速に対応した。

8 入場者数と財源の確保

美術館長による所見	ほぼ目標入場者数を達成することができたと思われるが、入館料収入の増加を目指すためにも、有料入場者の確保に向けたさらなる努力も必要である。外部助成金の確保については、地域創造や文化庁からの助成を得るために努力し、県の国際課からの付替えなどに成果が認められる。
評価部会による所見	入場者数は、市民・県民人口からみてまず適正と評価できるが、無料入館者が多い。外部の助成獲得や県事業との協働による財源確保も努力している。

(1) 入場者数

令和5年度目標	入場者数は45,000人を目標とする。
成果・課題	43,200人。展覧会ごとの集計では49,883人であった。（内覧会、県展は別）

(2) 財源の確保

A. 入館料収入 達成率

令和5年度目標	当初予算5,566千円に対する達成率を100%とする。
成果・課題	決算額は4,680千円で、達成率84%であった。

B. その他の収入

令和5年度目標	駐車場収入3,295千円、行政財産使用料1,290千円、その他9,223千円を目標とする。
成果・課題	駐車場収入3,548千円、行政財産使用料1,296千円、その他8,417千円であった。

C. 外部助成金等

令和5年度目標	助成金を得られるよう応募する。
成果・課題	「原勝四郎展」に対して一般財団法人地域創造の助成金7,429千円を得た。「トランスボーダー」展は国際課より25,003千円の付替えがあった。「博物館を中心とした広域連携に基づく和歌山移民史の総合研究発信事業」に対して令和5年度 Innovate MUSEUM 事業（文化庁補助事業）7,429,000円を得た。